

# このアクセサリーが出来るまで。



↑携帯ストラップを作る生徒たち。まずは基本の結び方を勉強しています。結び方が上手になってくると、いよいよ作品作り。手先の器用な彼女らはすぐに結び方を覚え、自分でアレンジした作品作りに熱中しています。この講座を行うようになってから、少しずつ生徒の出席率が上がってきました。とても嬉しいことです。写真の左下に居る子どもたちは、お母さんの勉強についてきた子らです。初めはみていただけでしたが、最後には自分たちも!と作るのに夢中になっていました。

授業の前にアクセサリー作り。教え始めて2ヶ月経ちました。自由な発想でそれぞれ作品作りです↑

## PKBM (学習活動センター) って何？



貧困や家庭の事情のために学校を中途退学した青年が再び学校に行けるように、インドネシアでは各県に PKBM (学習活動センター) を設置し、そこで各フォーマル学校と同様の授業を受けられるシ

ステム (ノンフォーマル教育) を設けています。

タカラール県では、現在9つの郡に13のPKBMがあり、週に3日午後から夕方にかけて授業が行われています。通常の授業科目ももちろん行われていますが、少ない時間の中で学ばなければならないため、一般の学習に加え、自立のための技術取得講座を行うことが特色とされています。

## PKBM (学習活動センター) の生徒たち

この郡の PAKET C (高等学校の教育にあたる) では、18歳から、35歳までの生徒が勉強しています。

週に3日の授業ですが、担当の先生が急に欠席したり、生徒が一人も登校しなかったりと、日本と違っていろいろ問題は山積みです。生徒の中には、もっと勉強したい!という人や、家の仕事が忙しく学校に来れないよ!という人。子ども連れでな

んとか通ってくる人など、さまざまです。

3月から毎回授業日に、必ず私も参観するようにしました。そこで分かったのは、生徒が登校しても、先生が来ない、生徒も毎回は来ない、ということです。日本では考えられないことです。真面目に登校した生徒が、授業がなく帰る姿を見続け何かできないかと思い、先生が来ない日には、アクセサリー作り講座をすることにしました。このアクセサリー作りに興味を示した生徒は欠かさず授業に通ってくれるようになり、できた作品を村の人に売るまでになりました。

7月現在、この生徒たちは高校3年生にあたる授業を終えました。卒業しても働く場所のない現地で、アクセサリー作りは現金収入を得る、自立のための重要な仕事となりました。生徒の一人はこの技術を姉妹にも教え、引き続き作品を作成しています。この作成を通して、作ることの楽しみ、集中することの楽しみを覚えてくれたようです。

販売した商品の利益は村人に還元され、今後の運転資金となります。現在、PAKETの卒業生でアクセサリー作りを仕事とするグループを作るための活動を展開しています。

やっと高校にあたる教育を卒業し、今後また進学して勉強を続けたいという彼女たち…

彼女たちの夢を叶えるためにも、まずは自分の手で学費を稼ぐための一助となるよう、この活動を大事に育てていきたいと考えています。

## みなさんからの連絡をお待ちしています！

ブログはこちら <http://matahari-indonesia-reo.blogspot.com>  
インドネシア生活を随時お伝えしています。

E-MAIL : [reokbaihezi@ybb.ne.jp](mailto:reokbaihezi@ybb.ne.jp)

県内ではインターネットが使えないため、2週間に1度くらいの割合で開いています。

青年海外協力隊 20年度1次隊

インドネシア 青少年活動

熊倉 百合子